

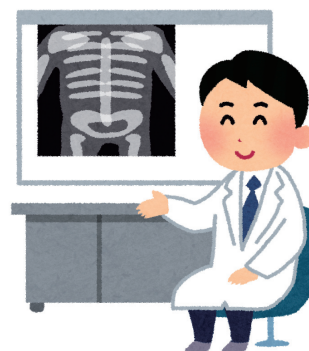
## がん検診及びそれにかかる検査のおすすめ

現在、日本人の2人に1人ががんにかかり、3.5人に1人ががんによりお亡くなりになる状況です。一方で、胃癌などはピロリ菌を検査し、それを除菌することにより、発症が抑えられたり、肝臓の癌の原因でもあるC型肝炎につきましても、肝炎ウイルスに対する抗ウイルス薬で予防できたりもします。

症状があつて外来を受診した場合には、がん検診と比べ進行したがんが多く見つかります。一方がん検診は症状のない健康な人を対象にしていることから、早期がんが多く発見されます。早期がんのそのほとんどが治り、しかも負担の少ない治療ですみます。一方、進行がんは、臓器によって程度が違いますが、治すことが出来ない場合が多くなります。この為、予防及び早期発見早期治療が重要です。

### 検査方法

- 胃の検査 → 胃カメラ
- 大腸の検査 → 便潜血 → 陽性であれば大腸カメラ
- 肺の検査 → CT、レントゲン
- 肝臓、胆のう、膵臓 → CT、エコー

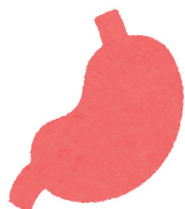


### 大腸がんについて



大腸（結腸・直腸・肛門）に発生するがんで、腺腫という良性のポリープががん化して発生するものと、正常な粘膜から直接発生するものがあります。日本人ではS状結腸と直腸にがんができやすいといわれています。大腸の粘膜に発生した大腸がんは次第に大腸の壁に深く侵入し、やがて大腸の壁の外まで広がり腹腔内に散らばったり、あるいは、大腸の壁の中のリンパ液や血液の流れに乗って、リンパ節や肝臓、肺など別の臓器に転移したりします。

### 胃がんについて



胃の壁の内側をおおう粘膜の細胞が何らかの原因でがん細胞となり、無秩序にふえていくことにより発生します。がんが大きくなるにしたがい、徐々に外側に深く進んでいきます。がんがより深く進むと、近くにある大腸や膵臓（すいぞう）にも広がっていきます。また、がん細胞がリンパ液や血液の流れに乗って転移や、おなかの中のがん細胞が散らばる腹膜播種（ふくまくはしゅ）が起こることがあります。また、胃がんの中には、胃の壁を硬く厚くさせながら広がっていくスキルス胃がんがあります。症状があらわれて見つかったときには進行していることが多く、治りにくいがんです。

気になることがありましたら、診察時に問い合わせ下さい。

